



町長のまちづくり奮闘記

～元気で笑顔のあふれる福島町を実現するために～

【災害時に備える平常心が大切・・・】

福島大神宮例大祭が好天に恵まれ無事に終わり、朝夕の秋風が心地良く感じる季節となりました。

八月十三日(月)に「第三十二回やるべ福島イカまつり」が海峽横綱ビーチで開催されました。

ここ数年イカの不漁が続いており、活イカつかみどりのイカの確保が心配されましたが、前日、久々に海峽一面に漁火が灯り、漁師さんの協力により十分なイカが確保され、来場者は長蛇の行列をつくって、イカのつかみどりに歓声が上がっておりました。

豪華景品が当たるビンゴ大会や横綱太鼓などの披露があり、海峽花火大会が鮮やかに夜空を彩りました。

ここ数年で一番の天候にも恵まれ、会場に足を運んでくれた町民や故郷へ帰ってきている方々の数が、例年より多かった印象を受けました。

八月二十六日(日)に、

「第十六回千軒そばの花観賞会」が開催され、町内外から多くの方々に参加をいただきました。

当日は、じゃがいも掘体験が行われ、参加者は袋一杯にじゃがいもを詰め込んでおりました。また、高田ともえ歌謡ショーに続き、松前神楽が白いソバ畑で奏上され、多くのカメラマンが幻想的な風景をカメラに収めておりました。

終了後、参加者の方々から「楽しかったです」との言葉をいただきました。千軒そば生産会、千軒地域活性化実行委員会や千軒地区の方々のおもてなしの心が参加者へ通じているものと思います。

今年最大の勢力を維持したまま日本に上陸した台風二十一号が九月四日(火)の夜から五日(水)未明に北海道を通過し、住宅等屋根の破損や倒木の被害が発生しましたが、大きな災害にならずに安堵したところです。

また、九月六日(木)

午前三時頃に発生した胆振地方中東部を震源とするマグニチュード七の大きな地震により、厚真町・安平町周辺を中心に甚大な被害が発生し、北海道全域が停電になる事態が発生いたしました。

過去に、このように全道が停電になったことはなかったと記憶しており、災害を含めてこれまでの経験が通用しない事例が発生しております。

当町でも二日間停電となり、七日未明に役場などの一部の地域で電気が回復しましたが、多くの地域では停電が続きました。

町では、避難所を設けて赤十字奉仕団のご協力をいただき、炊き出しのおにぎりなどを提供するとともに、役場と吉岡支所において携帯電話の充電サービスを行いました。

日々、当たり前のように使っている水道や電気などのライフラインのあたりがたみを改めて感じています。そんな中、緑

町の「ささ井」さんが、災害対応の職員や町内会の方々へ、そばを無償で提供するなど、地域の助け合いのありがたさを肌で感じました。

よくお年寄りの方々が、福島町は災害が少なくないねと聞くことがあります。本当にそのような感じしております。

日本各地で発生している異常気象、さらに今年の西日本を中心とした異常な暑さなど、地球温暖化が進行してきている気がいたします。

「まちの安心・安全」を町づくりの前面にPRすることで、移住定住策に繋がるものと考えます。災害時などの危機管理の時にこそ、リーダーの資質や本質が問われると言われます。

一にバイタリテイ、二に楽天性、三に絶えざる自己修煉だと、不測の災害時に備えて、日々、まちのリーダーとして資質を磨きたいものです。